

2023年8月20日
礼 拜

聖書

創世記40章1～23節

40:1 これらのことの後、エジプト王の献酌官と料理官が、
その主君、エジプト王に対して過ちを犯した。

40:2 ファラオは、この献酌官長と料理官長の二人の廷
臣に対して怒り、

40:3 彼らを侍従長の家に拘留した。それは、ヨセフが監
禁されているのと同じ監獄であった。

40:4 侍従長がヨセフを彼らの付き人にしたので、ヨセフは
彼らの世話をした。彼らは、しばらく拘留されていた。

40:5 さて、監獄に監禁されていた、エジプト王の献酌官と料理官は、二人とも同じ夜にそれぞれ夢を見た。その夢にはそれぞれ意味があった。40:6 朝、ヨセフが彼らのところに来て、見ると、彼らは顔色がすぐれなかった。

40:7 それで彼は、自分の主人の家に一緒に拘留されている、このファラオの廷臣たちに「なぜ、今日、お二人は顔色がさえないのですか」と尋ねた。40:8 二人は答えた。「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない。」ヨセフは言った。「解き明かしは、神のなさることではありませんか。さあ、私に話してください。」

40:9 献酌官長はヨセフに自分の夢を話した。「夢の中で、
私の前に一本のぶどうの木があった。

40:10 そのぶどうの木には三本のつるがあった。それは、芽
を出すと、すぐ花が咲き、房が熟してぶどうの実になった。

40:11 私の手にはファラオの杯があったので、私はそのぶど
うを摘んで、ファラオの杯の中に搾って入れ、その杯をファラ
オの手に献げた。」

40:12 ヨセフは彼に言った。「その解き明かしはこうです。
三本のつるとは三日のことです。

40:13 三日のうちに、ファラオはあなたを呼び出し、あなたを元の地位に戻すでしょう。あなたは、ファラオの献酌官であったときの、以前の定めにしたがって、ファラオの杯をその手に献げるでしょう。40:14 あなたが幸せになったときには、どうか私を思い出してください。私のことをファラオに話して、この家から私が出られるように、私に恵みを施してください。40:15 実は私は、ヘブル人の国から、さらわれて来たのです。ここでも私は、投獄されるようなことは何もしていません。」

40:16 料理官長は、解き明かしが良かったのを見て、ヨセフに言った。「私の夢の中では、頭の上に枝編みのかごが三つあった。40:17 一番上のかごには、ファラオのために、ある料理官が作ったあらゆる食べ物が入っていたが、鳥が私の頭の上のかごの中から、それを食べてしまった。」40:18 ヨセフは答えた。「その解き明かしはこうです。三つのかごとは三日のことです。40:19 三日のうちに、ファラオはあなたを呼び出し、あなたを木につるし、鳥があなたの肉をついばむでしょう。」

40:20 三日目はファラオの誕生日であった。それで彼は、すべての家臣たちのために祝宴を催し、献酌官長と料理官長を家臣たちの中に呼び戻した。

40:21 そうして献酌官長をその献酌の役に戻したので、彼はその杯をファラオの手に献げた。

40:22 しかし、料理官長のほうは木につるした。ヨセフが彼らに解き明かしたとおりであった。

40:23 ところが、献酌官長はヨセフのことを思い出さないので、忘れてしまった。

説教
「神のなさること」

創世記37章では、ヨセフが兄たちに嫉まれて
エジプトのポテパルの家に奴隷に売り飛ばされた事
件が書かれています。

39章ではポテパルの家で忠実に働いていた、神が
ヨセフと共におられた。神はヨセフのゆえにポテパル
全家を祝福された。ポテパルの妻はヨセフを誘惑し
た。ポテパルの妻の罪を拒否したため、正しいことを
したのに牢に投げ込まれています。

しかし牢獄の中に置いても主はヨセフと共にいてくださり、監獄の長はすべてをヨセフにお任せになった。ヨセフのいた牢獄に献酌官長、調理官長が投獄をされ、ある日彼らは同じ日に夢を見た。

彼らはその夢を見てイライラしていた。

ヨセフはその夢を解き、その通り実現した。

献酌官長は3日後、元の地位に戻され、調理官長は3日後処刑され、その遺体を鳥がつかいばむようになりました。

ヨセフは幸せが回復する献酌官長に懇願します。
「あなたが幸せになったときには、どうか私を思い出
してください。私のことをファラオに話して、この家か
ら私が出られるように、私に恵みを施してください。
実は私は、ヘブル人の国から、さらわれて来たので
す。ここでも私は、投獄されるようなことは何もして
いません。」

「ところが、献酌官長はヨセフのことを思い出さないで、忘れてしまった。」

ヨセフは夢を解いてあげて、幸せな生活に回復出来るのですから、恩返しではなくても、無実の罪でここに入れられているのですから、パロ王に話して、牢から出られるようにしてください、と懇願しています。

ところが、献酌官長はヨセフのことを思い出さないで、
忘れてしまった。

献酌官長は幸せが回復して元の地位に戻り、幸せ
になり、獄中で自分の世話をしてくれて夢を解いてく
れたヘブル人奴隸のことをすっかりと忘れて、2年の
歳月が流れました。

ヨセフは今日か、今日かと毎日期待して待っていまし
たが、献酌官長がすっかりと失念してしまったため、2
年間、ヨセフは無駄な期待の日を送っています。

この間どれくらいの年月が流れているのでしょうか。37章2節で「ヨセフは17歳の時、彼の兄たちと羊の群れを飼っていた。」書き出され、兄たちがひれ伏す夢を見て、それを語って兄たちから憎まれ、37章28節でヨセフは銀20枚でエジプトに売り飛ばされています。エジプトに売られた年齢は17歳の時か、18歳の時くらいと考えられます。

41章でエジプト王パロが夢を見て悩みます。その夢を解いて、エジプトの総理大臣になったときは「エジプトの王ファラオに仕えるようになったとき、ヨセフは三十歳であった。」と41章46節に記してあります。17歳から30歳までの12～13年位の時が流れています。ポテパルの家で奴隷の歲月、獄中での年月、そしてむなしく待った2年間。その後で時代が動くようになります。

ポテパルの家で奴隷として過ごした時間、
ポテパルの奥様に欺かれて獄屋で過ごして期間、
合計12年間。

半分半分としても奴隷として6年、獄中で6年、12
年余り、17歳から30歳までの青春時代を奴隷、
囚人として過ごしています。

私たちがこのような仕打ちを受けて自由のない12
年を過ごすとしたら、どんな気持ちでしょうか。

今の時代、奴隷に売られるとか、無実の罪で収監されることはないかも知れません。

希望しない学校へ行かざるをえない、希望しない会社で、職場で働かざるをえない。事故などで障害者になり不本意な人生を送らなければならない。

高齢になってしまうと、自分の意思に反して、病気で体が不自由となり、病院、施設で自由のない不本意な10年を過ごすとしたら、どんな気持ちで過ごすでしょうか。

ヨセフはこの12年、どんな気持ちで、何を考えて過ごしたのでしょうか。

39:20 ヨセフの主人は彼を捕らえ、王の囚人が監禁されている監獄に彼を入れた。こうして彼は監獄に置かれた。

39:21 しかし、【主】はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた。39:22 監獄の長は、その監獄にいるすべての囚人をヨセフの手に委ねた。ヨセフは、そこで行われるすべてのことを管理するようになった。39:23

監獄の長は、ヨセフの手に委ねたことには何も干渉しなかった。それは、【主】が彼とともにおられ、彼が何をして、【主】がそれを成功させてくださったからである。

牢獄の中に置いても主はヨセフと共におられた。
主はヨセフを祝福され、監獄の長に信頼され、監獄
の中の事案のすべてをヨセフは管理する様になった。
ポテパルの家で奴隷であった同じことが獄中でも再
現されました。

祝福され、すべてがうまくいった、それでヨセフは
前向きに生きたのか、
牢獄に入れられた。普通なら怒りと絶望であります
が、ヨセフは神の主権を信じていた。
すべては神の御手から出ている、神様が御支配し
ておられる、これを確信したヨセフは、獄中でも前
向き肯定的な行き方をした。
それが看守長に信頼され、愛されるようになって
行った。相互の関係があります。

17歳の時、ヨセフは二つの夢を見ました。
37:6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。37:7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだのです。」

37:9 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。

ヨセフはこの夢が神からのものと理解して、信じていました。兄たちにしゃべって嫉まれました。奴隷に売られ、牢に入れられました。

しかしこの神からの夢は苦難、試練のヨセフを支えていました。この夢と自分の人生はどのようなつながりがあるのか。関わりがあるのか。自分の人生はどのように発展して行くのか。

「あいつの夢がどうなるかを見ようではないか。」と兄
たちは否定的に言いました。

ヨセフは試練苦難の中でもこの夢はどのようなもの
かと思いを巡らせ、それは奴隷や獄中でのヨセフに
夢・希望・期待を与えてヨセフを支えていました。

40:8 二人は答えた。「私たちは夢を見たが、それを
解き明かす人がいない。」ヨセフは言った。「解き明か
しは、神のなさることではありませんか。さあ、私に話
してください。」

神のなさることではありませんか。

夢を解き明かすことは神のなさること。

それなら、当然、夢をお与えになるのも
神のなさることであるとヨセフは確信していました。

この神からの夢が苦難の中のヨセフを支えていました。肉眼で見えるのは現実の世界、夢を見ていたヨセフは現実には振り回されずに、神様を見つめていました。これはヨセフが生き抜き、落ち込まなかった、絶望にならなかった秘訣であります。

私達も厳しい難しい現実にも生きていても、神の主権を信じる生き方、それは目で見える世界には振り回されずに神の計画を信じて生きる生き方です。

ヨセフはたまたま通りかかった商人に売られて、エジプトに連れて行かれました。ミデアン人の奴隷でなくイシュマエル人の奴隷でなく、エジプト人に奴隷として売られました。又エジプト王パロの侍従長、パロのそばで仕えるポテパルに買い取られました。

投獄された牢も王に反逆した囚人の入る監獄に入れられました。これらはヨセフが計画したことではありません。エジプトを飢饉から救い、家族を救う、神様の伏線であります。

40:8 ヨセフは言った。「解き明かしは、神のなさること
ではありませんか。さあ、私に話してください。」
ヨセフは自分の知恵ではない、能力ではない、自分
の意見でもない、神様のなさることです、と神様の主
権を信じて淡々と語っています。

私たちは人と話すとき、良き知らせを伝えることは幸いなことです。お医者さんが、検査をしましたが無題はありません。手術の結果は良好です、といい知らせをする時は気持ちも悪くありません。

しかし悪いニュースを知らせる時、お医者さんも人間ですから、辛いことと思います。しかし真実を伝えなければなりません。

献酌官長には3日立ったら、あなたは疑いが晴れて
元の立場に帰れます。これはいいニュースです。

調理官長には、あなたは3日立ったら、処刑されま
す。あなたの遺体を鳥が突っつきます。

これは悲しいニュース、ヨセフとしては伝えても喜ばれ
ないニュースです。でも淡々とお知らせをしました。神
がなさることを教えられたので、自分の研究でも調
査でもありませんので淡々と語っています。

ヨセフは献酌官長に

あなたは三日経ったら、疑いが晴れて、無罪と宣告され、元のようにパロ王に仕える職務に復帰します。

このことは神から出ています。

この信仰に立って良い知らせも悪い知らせも淡々と伝えていきます。ここまでだったら良かったのですが思わず自分が、自分の欲が出ています。

40:14 あなたが幸せになったときには、どうか私を思い出してください。私のことをファラオに話して、この家から私が出られるように、私に恵みを施してください。

40:15 実は私は、ヘブル人の国から、さらわれて来たのです。ここでも私は、投獄されるようなことは何もしていません。」

これは神から出たことです、と言いながら、
献酌官長様、これを教えたのは神様です、あなたが
牢から出られるのも神様の恵みです、と神様の主権を
信じていますが、
あなたが幸せになったとき、私のことをパロ王に告げてく
ださい。私は無実の罪で投獄されているのです。

これは神から出たことですといいながら、
あなたが私のおかげでここを出られるのですから、
　　少しくらい恩返しをしてください。
無実の罪でこの牢獄に収監されているのです。
パロ王にとりはかって、ここから出られるようにしてくだ
　　さい。

神のなさることです。それなら感謝お礼は神様にだけ
すべきことです。

にもかかわらず私のことを王様に話してください、ここから
出られるようにしてくださいと必死で懇願しています。

あなたはこの牢から解放されるのですから、
王様にひと言話す、それくらいの恩返しはしてくださっ
てもいいでしょう。

これだけ必死にお願いしたので、献酌官長は宴会の席でパロ王に、言ってくれたと思って毎日毎日、今日か、今日かと待っていましたが、献酌官長はすっかり幸せになった途端、獄中のいやなことを忘れてヨセフの依頼も全く忘れてしまいました。

この点は神様の主権を信じる信仰のヨセフの弱点が
露呈している点です。

神の主権を徹底的に信じて入れば、献酌官長に依
頼する必要もなかったでしょう。この依頼をしたために
ヨセフはこの2年間、期待と失望が繰り返される
日々を送ったことでしょう。

神様の主権を信じる生き方は、
時間も神様が支配している、神様の良い時に
御心は実現すると、時間も主に徹底的に委ねる信
仰です。

待つことは辛い事です。自分の思い通りにことが進
むと幸せです。でもそれは自己中心の人生です。時
間は歴史は神様の御手の中にあります。
神様の主権を信じて、思い通りことが進まなくても主
に委ねる信仰に生きましょう。

ヨセフの人生に夢が大きな影響を与えています。

自分の見た夢がヨセフを支えています。

献酌官長の見た夢を解きました。

その2年後にエジプト王パロが夢を見ました。

ヨセフはその夢を解く仕事をして

エジプトを治める総理大臣になっていきます。

夢が荒野の中のヨセフを支え、導いてきました。

イエス様がこの世に来て十字架にかかり、復活され、
聖霊が注がれ、神様の啓示としての聖書が完結した時代に生きています。聖書が完結する時までは神様は夢や幻で啓示されることはありました。今は聖書を通して御心を示してくださる時代ですから、神様は今はヨセフに見せられた様な夢で御心を知らされることはありません。

しかし今日も聖霊を通して自分の使命、なすべきこと、御心を示してください。神様から与えられた夢や希望、ビジョンに生きることは素晴らしいことです。神様はこの世の世界とは違います。弱いものも小さなものも豊かに用いてくださいます。不思議なこともなしてください。神様は人を用いて御わざを行われます。この神様からのビジョンに生きてお祈りして生きたいと思います。

このヨセフ物語を読んで、私には夢があると立ち上がった人がいます。

アメリカのキング牧師です。

1960年代、アメリカで人種差別が激しい時代、公民権運動を導きました。キング牧師を支えたのはヨセフの見た夢でした。夢を持って必ず人は皮膚の色で差別されない時代が来る、と信じて語り続け、奉仕を続けてこられました。

彼が運動中に凶弾に倒れましたが、その40年ほど後に初めての黒人の大統領オバマさんが就任する様になりました。

家族の救いのために、地域の方々の救いのため、
祈っている方々、子供たちの救いのために、
ビジョンを持って、夢を持って祈り続けましょう。

祈り。